

高石市議会議員 山敷めぐみ 議員活動報告

～子どもの幸せが広がるまちへ～

めぐみ通信

Vol. 1

2011. 07. 28



4月に行われました市議会議員選挙で高石市議会議員に初当選させて頂くことができました。初心を忘れず「子どもの幸せが広がるまちへ」高石市が少しでも進んでいくように、4年間、力を尽くして参ります。

6月議会報告と活動報告

「クリア高石」提出の条例案、否決！！

6月議会は6月9日に始まり、途中14日、15日の休会をはさんで、21日に閉会となりました。実質7日間の審議日程でした。

行政からの議案は第1号から第10号までありました。

私たちクリア高石では、議案第11号として、**議員提案として条例案を提出しました**。高石市では議員が条例を提案することはあまりなされていないようで、色々と試行錯誤をしながらの提出でした。

その条例は「**高石市立学校給食検討委員会設置条例**」です。

高石市では平成24年9月より、高南中学校での自校調理方式(学校の敷地内に調理室を建設)での給食開始が決まっています。あとの2校は平成25年度中の開始を目指しているそうです。

2人会派「クリア高石」誕生！

5月の臨時議会で、会派を決定しました。市民グループ「高石21」と一緒に活動していた寺島誠議員と「クリア高石」という会派を結成しました。代表は寺島氏。各会派から選出する議会運営委員会委員を山敷が務めます。

しかし、導入の決定にいたる過程で、議事録の残っている会議はほとんど開かれていません。情報公開請求で、中学校の給食を決定した過程の記録の公開を求めましたが「作成していないため」という理由で非公開でした。※

(※この非公開決定には不服申し立てを準備中です。)

今からでもせめて検討委員会を立ち上げ、継続的に、学識経験者も含めたメンバーで「高石市の中学校給食をどのようなものにしていくのか」を検討してほしい、ということで会派として「検討委員会の設置条例」を提案したのです。

結果は賛成少数で否決、でした。

子ども達の食に関することは、今後ますます重要になってきます。「給食を早く開始すること」が大切なのではなく「良い給食を実現すること」が大切なのだと考えます。

今後も、来年秋からの中学校給食が少しでも良いものになるよう、求めていきます。

幼稚園の耐震化いまだ手付かず！

平成21年秋に幼稚園・保育所の耐震1次診断の結果が公表されています。それによると、IS 値0.8未満で危険とされている幼稚園の園舎が6棟もある、ということでした。しかも、平成22年、23年のそれぞれの予算案策定の時期に、教育委員会は幼稚園耐震2次診断を認めるよう事業計画を出されていた(と私には理解できた※)にも関わらず、平成23年度予算については市長査定でC(=実施の予定なし)とされてしまっていたのです。

(※山敷が情報公開で入手した資料には、幼稚園の耐震二次診断の予算要求について「平成21年11月26日に提出」という日付の入っている平成22年度の予算要求書がありました。当然、この書類は提出されたものと理解していたら、今回の予算委員会で「提出はしていません」という答えが・・・???…。結論としては、本来なら「提出しなかった」旨の文書があるべきところ、その文書がない。しかし、提出はしなかった。ということらしいです。文書の管理が出来ていないのですね。でも教育委員会の中で、二次診断が必要、と判断していたということは言えると思います。)一刻も早く子どもたちの施設の耐震化を、と要望しました。

放射線測定器、高石市にはありません！

危機管理の観点から予算委員会で放射線測定機について質問しました。高石市から一番近い、福井県の高浜原発は100キロ強の距離しかありません。現在、3機が運転中です。何か起こってから測定器を購入するのでは間に合わないで、現在の高石市の所有数を教えてほしい、という、把握していない、とのお答えでした。

後日、本会議の席上では「堺市消防局に80台ある。」というお答えを頂いたので「高石市で測定器が必要な時は、きっと堺市でも必要になると思われる。そのうち何台が高石市に貸与されるのか。」と質問すると「把握してない。」ということでした。このような状態では、放射能関係の事故が起こった際に、放射線量を測定することもできな

5.5 μ sv/h (マイクロシーベルト) の放射線を帯びた中古車が高石に！

7月12日午後8時14分に、議会事務局より自宅へファクシミリが届きました。

内容は「南高砂における放射線を帯びた輸出中古車の報告について」でした。この件は翌日の朝刊にも掲載されましたので、ご存知の方もおられるかと思えます。内容は7月11日午前、福島県で登録を抹消され輸出される予定で、高砂にある輸出事業者の敷地内にあった中古車から5.5 μ sv/h (マイクロシーベルト) の放射線量が検出された、というものでした。

3.2 μ sv/h でも避難勧奨地点に指定されています。

5.5 μ sv/h というのは放置できない数値です。私は翌日に危機管理課を訪ね「昨日の中古車の件はどうなっていますか。まだ高石市にあるのですか。」と訊きました。すると、課員の方から返ってきた答えは「・・・何のことですか？」

高石市での危機管理はどうなっているのでしょうか。

後に「これは港湾の問題なので経済課で対応しています。」とのこと。経済課が関わっているといても、危機管理課に情報が行き届いていないのは、大変な問題です。市役所全体での情報の共有が全くなされていない事実、に、驚きと怒りを覚えました。

当該車両は、7月15日に業者によって引き取られたそうです。高石市としては現地には誰も行ってない、ということで写真などの資料もありませんでした。陸路で搬入されたということで高石市内も通過したであろうと思われ、色々な可能性を考えると、やはり高石市として放射線測定器を準備しておくべきですし、危機管理に関わる情報は危機管理課がきちんと把握する必要があるのではないのでしょうか。

「自主防災組織に入っていない人は
守ってもらえないの!？」
予算委員会と本会議で質問しました!

高石市は自主防災組織率100%を目指す、
ということです。自主防災組織というのは高石市
では自治会単位での結成になっています。自治
会に入っていない市民に対してはどのように対
処するのでしょうか、と質問しました。「今後の検
討課題」ということでした。自治会の加入率は7
4, 9%とのこと。自主防災組織はその目的から
考えても、自治会単位ではなく住民をすべて網
羅するような形態で組織されなければならない
のでは、と思います。

ある元自治会長からのコメント↓↓↓

「自主防災組織と言っても設立時に一時金数万
円が1回のみで、毎年の活動費用に対する補助金
はありません。つまり、実態は自治会員から集め
た自治会費で運営しなさいということです。口は
出すけど金は出さない典型です。このような形で
ほとんど活動が出来ない(備品の購入すらできな
い)自主防災会に頼る形で高石市役所は防災計画
を立てたかのように勘違いしています。市長は1
00%という数字が大好きな人ですが、この実態
の自主防災組織100%に何の意味があるので
しょうか?最初から各自治会に丸投げの自主防
災ですから自治会に加入していない25%の人
は当然対象外となります。会費を納めた人しか対
象にはなりません。この形が行政として是か非か
公式な見解を聞いてみたいものです。しかし、自
治会に加入しない人はそもそも相互扶助を期待
していない面もあります。自治会費を払い、各行
事に参加し、働いている自治会員と自治会に加入
しない人が同じ扱いになればそれは公平とは言
えないでしょう。」

高石市はどのように考えているのか、明確にし
てほしいものです。

議会改革!!

高石市議会では、まだ本会議のインターネット
中継も行われておらず、議会の傍聴者への資料
の提供や、各種委員会の同室での傍聴なども認
められていません。また、議会だよりには、発
言した議員の名前や行政側の答弁も記載され
ていないという状況です。開かれた議会には程
遠い現状に、これではいけない、と思うものの、
実際にどのように事を進めていけば良いのか
が分かりませんでした。

そこで、まず周辺他市の視察に行きました。

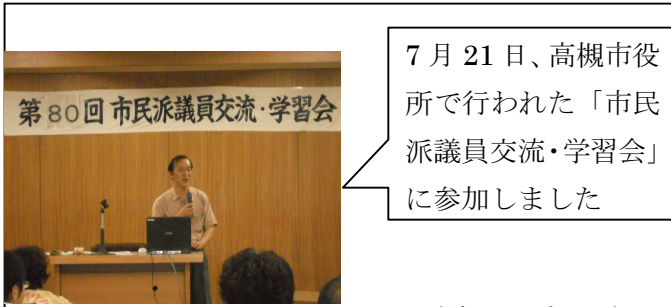
お隣の泉大津市を皮切りに、和泉市、泉南市に
行ってきました。泉大津市ではインターネット
中継を「U-STREAM」という方法を使って、
ほぼ無料での中継を行っておられます。



和泉市では傍聴者
に議員と同じ資料
を貸出しています

和泉市と泉南市では業者に依頼し、導入経費、
維持経費をそれぞれ相当額掛けての中継の実
施でした。

また、各種委員会は3市ともに同室で傍聴可。
(和泉市では、予算委員会と決算委員会は議場
で実施されるため、傍聴はもちろん、ネットでの
中継もされています。) 議会や委員会の資料も、
議員と同様のものを貸与している、ということ
でした。議会だよりは、市によって多少の違い
はありますが、一般質問の要旨と回答は議員名
も入ったものを、3市共に掲載されています。
(次ページに続く)



7月21日、高槻市役所で行われた「市民派議員交流・学習会」に参加しました

(前ページより)

7月21日の市民派議員交流・学習会では他市の議会だよりを沢山見せていただきました。中にはカラーで24ページもある議会だよりもありました。我が高石市のようなA3裏表、白黒、発言者および議案の賛否に議員の名前が一切なし、という議会だよりは見当たりませんでした。大体の自治体の議会だよりは、一般質問の発言内容、発言者名、行政の答弁までがセットで掲載されていました。中には、議案や請願、意見書や決議など一つ一つに対する議員の賛否までを明確に記載されているものも複数ありました。

少しでも開かれた議会になるよう、努力していきたいと思います。

高石市のような白黒で4ページ、という議会だよりは見当たりませんでした。



この交流・学習会では、近畿の原子力防災の現状と課題についても学習しました。

放射能汚染により二重三重に被災されている人々のことを思うと、原子力発電を是としてはいけないと思います。山敷は以前より六ヶ所村の問題など、少しずつ勉強はしていましたが、知識だけで何も行動はしてきませんでした。

未来の社会に核廃棄物の処理を押し付けるようなシステムを導入するべきではなかった、と思います。さらに、このような大事故を目の当たりにした今、キッパリと脱・原発を目指していかなければなりません。

6月議会で提案された意見書は「原発の安全対策を万全に」という主旨で廃止は謳われてなかったので、クリア高石としては賛同しませんでした。まだまだ勉強しなければならないことは沢山ありますが「子どもの幸せ」を考えると、安心して暮らせる安全な社会を残さなければならない、と強く思います。

編集後記

公職選挙法では、紙面上や個別に訪問しての当選の御礼は禁止されています。4月の選挙では沢山の皆様のお力添えが本当に心強く、当選後の大きな励みとなっています。

議員となるまでは、議会や委員会の傍聴に何度も何度も足を運び、一市民として様々に行政に物申して参りましたが、皆様の税金で報酬を頂く身となった以上、市民の皆様にも少しでも「良くなった」ことを実感していただけるよう、働きかけていきたいと思っています。

9月議会が9月8日から始まります。期間中はブログに日々の議論を綴っておりますので、是非ご覧下さいませ。(6月議会の議論やクリア高石が提出した条例案、視察の内容なども詳しく掲載しております。)

<http://yamashikimegumi.com/>

発行：山敷 めぐみ
高石市羽衣5-1-43-204
072-264-8556
yam4-meg3@ezweb.ne.jp
megumi_y@fb3.so-net.ne.jp